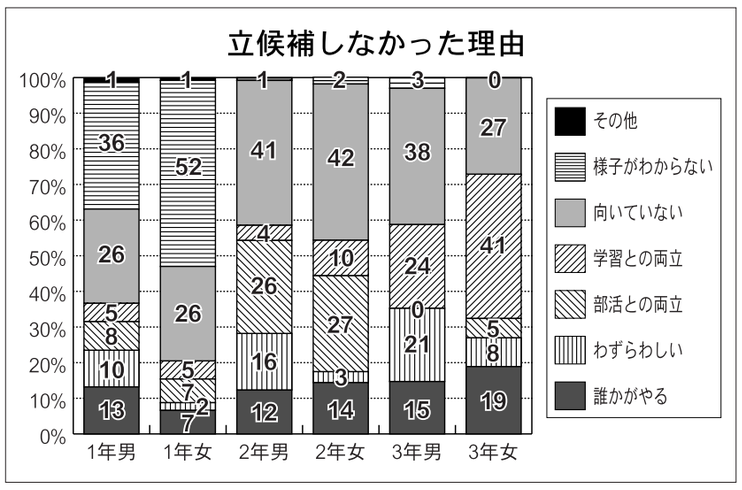
一宮西高新聞

発行所
愛知県立一宮西高新聞部
一宮市萩原町串作河田1
電話 0586(68)1191
株式会社 大東社
電話 0586(62)1168

# 議会選出で、執行部全員が1年生！

今期の生徒会役員選挙では立候補者が誰もいなく、議会選出で選ばれた役員は全員1年生だった。執行部が1年生のみで、西高祭などを全く経験していない役員ばかりだから、それらの企画運営に支障が出る可能性がある。

今回の特集は生徒会役員選挙問題について考えていきたい。今回、1・2年生全員と3年生の2クラスの生徒にアンケートをして、考えを聞いた。




「あなたはなぜ立候補しなかったか」の問いに対して1年生で一番多かったのは「学校の様子がわからない」だった。1年生なので、ある意味仕方のないことだと思う。

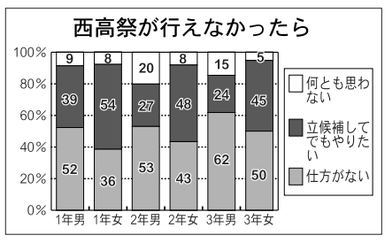
2年生で多かったのは「自分に向いていない」の42％だったが、次に多かったのが、「部活との両立ができそうにない」の27％だった。西高では他の学校に比べて部活参加率が高く、9割を越えている。だからといって、生徒会に時間を割けないというわけではない。現にこれまでの生徒会執行部は部活をやりながらやってきている。

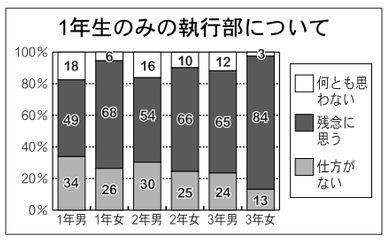
3年生で多かったのは、「学習との両立ができそうにない」、「自分に向いていない」だった。3年生で生徒会をやる者はあまりいないので、了解できる。「誰かがやる」も多かったが、2年生がやるだろうと期待していたのだろう。

男女別に見ると男子に「わずらわしい」と考えている者が多くいた。

「今回、立候補者がいなかったことについてどう思いますか」という質問には、58％の人が「残念に思う」と答えた。だが、2年男子は「残念」が38％に対して「仕方がない」の42％の方が多かった。仕方がないと考えるのは、自分たちが当事者だからであろうか。西高の中心でありながら、「仕方ない」と批判の矛先から逃げているように思える。

また、「執行部が全員1年生であることについてどう思いますか」という質問では、「残念に思う」と答える者が全体で64％を占め、1年が57％、2年が60％、3年は75％にもなった。さすがに1年生だけではかわいそうだと考えている人が多いようだ。




## 「西高祭」立候補してでもは39％

「生徒会執行部が決まらず、西高祭や球技大会が行えなかったらどう思いますか」という質問では全体で50％が「仕方がない」と答えた。「立候補してでもやりたい」は全体で39％だが、1年女子では54％もいる。こういった意識が、今回の1年生だけの執行部を支えているのかも知れない。

「議会選出という制度についてどう思いますか」には全体で「あった方がよい」が55％、「ない方がよい」の14％よりも圧倒的に多かった。

「議会選出という制度をなくした場合、立候補は増えると思いますか」の質問には87％の人が「変わらない」と答えた。だが9％が「増える」と答え、「減る」の4％を上回った。

西高の行事は自分が立候補してでも行いたいと思えるほどの魅力がないのだろうか。それならば仕方がないとも思えるだろうが、西高祭は高校受験のとき、西高を選ぶ大きな理由の1つだった人も多いのではないだろうか。それも、誰かが取り仕切ってくれればやるというレベルでしかないのだろうか。確かに取り仕切るというのは大変だが、一方で充実感もあるのではないだろうか。

「生徒会執行部が決まらず、部費が出なかったらどう思いますか」という質問では、どの学年でも「仕方がない」と答えた人が一番多く、全体で55％であった。自分たちで払えばいいと考えているのかもしれないが、部活に使うような道具や機材は割と高い。また、部活動細則第11条には「各部は原則として会員から金品を徴収しない。」となっている。執行部が決まらない場合は原則には当てはまらないだろうが、部費が出ないと困ることは確実である。

アンケートの回答の中で多かった意見や気になったものをいくつか挙げる。

「2年生にやってほしかった」「もっと選挙に積極的になるべき」「自分の事で精一杯」「生徒会選挙の宣伝をもっとすべき」「生徒会の仕事がわからない」「ボランティアを作って西高祭を手伝うべき」「西高祭や球技大会を委員会単位ですべき」「立候補するのが恥ずかしい人もいると思う」「やりたいけど浮くから」など2年生の責任を問う声や、選挙への積極的さを求める声が多かった。

## 提言　議会選出制度はなくしてしまおう

いっそのこと、議会選出制度をなくしたらどうだろう。

議会選出がなかったとすると、議員の誰かがやるという「保険」がなくなる。西高祭を楽しみにしている3年生が、2年生から立候補者がいないということを知ったとする。「俺たちに西高祭をやらせないつもりか」と、同じ部の後輩などを通じて2年生に対して圧力をかけるだろう。

すると2年生の中でも「どうする？」と話題になり、自分たちのこととして考えざるを得ず、結果、誰か立候補することになるだろう。ただ、「俺1人じゃ嫌だから、お前たちも手伝えよ」と他の人も誘うことになるだろう。こんなにもうまくいかないかもしれないが、十分考えられる。

そもそも、議会選出などと言う制度がある高校はほとんどない。近隣の某高校でも立候補者が誰もおらず、執行部が誰も決まらない状況になったらしい。だが、これではいけないと考えた生徒の中から会長以外のポストをやる者が出て、さらに2年生から会長が出たという。これが本来の生徒会のあり方だろう。

議会選出をなくそう。それでも執行部が成立しなかったら、西高祭もやらなければいい。「仕方ない」と考えている者が大多数なのだから。

## 西高の伝統は守られるのか？

生徒会主任　手島先生

まず、西高生全員に結果をしっかり見てほしい。

「私1人がやらなくても…」そういう考えがこの結果になっているのではないだろうか。本当に役員が立候補しないことは仕方がないことなのか？向いていない人ばかりなのか？西高祭が行われなくても仕方がないのか？部活動ができなくなっても仕方ないのか？これらのことに何とも思わないのか？

決して2年生だけの問題ではない。1年生は、来年自分たちが2年生になった時にどのように生徒会と関わっていくのか、3年生は、後輩にどのような思いを残していくのか、それぞれの学年の立場で本気で考えてほしい。

毎年、当たり前のように生徒会行事ができることを当たり前だと思わないでほしい。生徒会は生徒の自主的活動で運営されるもの。西高生にとって生徒会・学校行事の位置づけをしっかり考えてほしい。

ピンチがチャンスです！

## 経験者は語る

また、今回は昨年度後期に生徒会執行部をやっていた長峯貴幸君と加藤里奈さんに今回のアンケートの結果を見てもらい、感想を頂いた。

まずは、長峯君のものから。

「執行部の仕事内容があまり知れ渡っていないのも、立候補が少ない要因の1つだと思う。『生徒会は大変』と思われる所以は何だろうか。毎回議会に出て、行事とかの運営に関わり…。そういった固定概念によるものであるだろう。しかし、行事の中心は、実は生徒会ではなく、文化委員や運動委員。生徒会は決して仕事が多いわけではない。『責任』が重いだけだ」

次に加藤さんのもの。

「生徒会をやると、いろんな行事で、開催するという立場からもその行事に携わることができます。そして、行事を終えたときには達成感を味わうことができます。また、生徒会の活動は楽しいです。」と生徒会執行部の活動をしての感想である。

確かに生徒会執行部が具体的にどんな仕事をするかといわれるとよく分からない人も多いだろう。生徒会執行部の仕事内容をもっとピーアールしていかなければならないだろう。責任が重く、行事を開催するという立場である生徒会執行部。でも、それらを乗り越えて得るものは本当に貴重なものなのだろう。

## 論説　サマータイムが導入されても…

日本でもサマータイムを導入する動きが活発になってきている。

サマータイムは高緯度で夏の日照時間が長い欧米などでは一般的な制度であり、太陽の出ている時間を有効活用するために、夏の間時刻を1時間早めて、それに合わせて生活する制度である。日中の明るい時間を有効活用し、エネルギー消費量を抑えるとされる。

現在実施中の欧米にならえば、3月の最終日曜日に時計の針を1時間進め、10月の最終日曜日に元に戻すことになる。

我が国でも戦後のアメリカの占領下で一時期導入されたことがあり、緯度の高い北海道の道庁や一部の企業などで現在、試行的に行われたりしている。

賛否両論の声が聞かれるが、実際に導入されたら私たちの高校生活はどう変わるのだろうか。

サマータイムを導入すると、日没までの時間が1時間長くなる。まだ明るい時間に帰宅することができ、交通事故や不審者の被害を減らすことができる。また、家で明るい時間を1時間多く使うことができる。明るい時間に帰宅することで、愛犬の散歩もできるし、暗くてちょっとした外出をためらっていた人も外出できる。

帰ったときにまだ明るいと、何かまだいろいろとできるような気がしてうれしいが、暗いともう何もできない気がして、なんだか気分が沈んでしまう。さらに、夏などは登校が早くなる分、朝涼しくて清々しい気分で登校できるだろう。そして、1日が充実に送れるような気がする。

この気分というのはなかなか大切だ。実際、朝早起きをすると1日が長く感じる。

また、サマータイム導入の一番の理由は、地球温暖化防止という環境への配慮だ。明るいうちに仕事を終わらせることができれば、その分照明などに用いる電力が節約できるからだ。私たちでも、帰宅後まだ明るいうちから自宅で勉強したら、その分使用電力が少なくて済むはずではある。

だが、果たしてその通りに進んでいってしまう。それは補習に限ったことでもなく、授業全体に影響がある。授業に集中できなければ、学力低下にもつながるだろう。

この6月、不眠症治療に取り組む医師らでつくる日本睡眠学会は、健康に悪影響を与える可能性があるなどとして導入に反対する声明を発表した。制度を導入した欧米では健康被害が多数報告されており、夏時間への変更後、数日で、良いことずくめなのだろうか。

学校に来る時間が早くなる。6、7月ならいいが、補習のためには時期によっては、まだ薄暗い中登校しなければならない。サマータイムに切り替わった直後は生活リズムの変化に、身体が順応できるだろうか。早く寝ようと思っても眠たくなくて、しばらくは眠れないかもしれない。睡眠不足では補習は眠くて集中できなくなり、朝早くから学校に来る意味もなくなってしまう。それは補習に限ったことでもなく、授業全体に影響がある。授業に集中できなければ、学力低下にもつながるだろう。

この6月、不眠症治療に取り組む医師らでつくる日本睡眠学会は、健康に悪影響を与える可能性があるなどとして導入に反対する声明を発表した。制度を導入した欧米では健康被害が多数報告されており、夏時間への変更後、数日から2週間程度は睡眠時間が減少。日本人は欧米より平均睡眠時間が約1時間短いため影響は大きく、暑さが収まらない時間に床に就けば、寝付けずに不眠を誘発する可能性もあるという（朝日新聞6月6日）。

また、帰るときもまだ明るく、まだ部活をやりたいと思って、ついついいつまでも部活を続けてしまったりしないだろうか。帰りに寄り道をする人も増え、帰る時刻も遅くなってしまい、家で自由に使える時間が減ってしまう。そのため勉強時間を確保するのが難しくなったり、今まで趣味に当てていた時間も減ってしまう。

こうやって考えてみると、高校生活という面ではサマータイムを導入しても利点は気分的なものが中心で、デメリットの方が多いように思われる。

にもかかわらず福田首相をはじめとして、政府がサマータイムの導入に意欲的な姿勢を見せている理由は何であろうか。

地球温暖化が急速に進んでしまっている今、それを食い止める特効薬的な手段が明らかにならないのが実情だ。その中で、「日本はこんなことをやっています」と、目に見える形で世界中にアピールする施策の1つがサマータイムの導入なのではないかと思われる。

このサマータイムの効果があるかを疑問視する声も少なくない。コンピュータで様々に組み立てられた今の社会のシステムのプログラムを1時間ずらすということは、簡単そうに見えても容易ではない。信号機の設定を変えるということだけでも、350億円もかかると言われているのだ。

サマータイムよりも、企業の生産部門での改善はもちろん、私たちの日常を見回して、毎日夜通し放送され続けるテレビ放映を深夜0時で止めるとか、深夜営業のコンビニの営業時間を見直すなど、様々な見直しが必要だ。

さらに温暖化防止につながる新たな技術開発が急がれる。それを担う研究を志す生徒が、私たちの同輩の中からも生まれてほしい。

## 前期生徒会役員抱負を語る

今年度の前期生徒会執行部は全員が議会推薦によって選出された。役員全員が1年生という、2年生の情けなさが浮き彫りになってしまった。後期は2年生から立候補者が出ることを期待したい。

新執行部の皆さんに自己紹介と抱負を語ってもらった。紙面の都合上、一部を省いた。

1、趣味・特技
2、好きな芸能人（歌手含む）
3、1億円手に入ったら何に使いますか
4、生徒会活動に対する抱負
5、執行部が全員1年生ですが、どう思いますか

**会長　若井　博允**（1―8）
1、趣味は読書と絵を描くことです。絵を描くことは特技でもあります。
2、B'z
3、まずは貯金して自分のために使いたいですが、学校行事の予算にあてて、より盛り上げるというのも楽しいと思います。
4、1年生で2・3年生を引っぱっていくということに不安は感じますが、先生方も手助けしてくれているので、最低限みなさんが楽しめるような学校生活を作り上げていきたいです。
5、確かに色々分からないことはあると思うけど、逆に考えると0からのスタートで、色々な新しいことを取り込む余裕があるということだと思っています。

**副会長　八木　拓也**（1―3）
1、趣味、バスケットボール
2、島田紳助
3、ユニセフに募金する。
4、西高のことをあまりよく知らないのもあって、新鮮な気持ちで新しいことにどんどん挑戦して、今までとは一味違った西高をつくっていきたいと思っています。皆さんのご協力をお願いします。
5、正直、不安です。でも、みんなで協力して、分からないところは先生や先輩方に聞き、困ったことも乗り越えていきたいです。皆さんの応援をお願いします。

**書記　馬場　萌**（1―8）
1、手芸とかお菓子づくりとか細かい作業が好きです。
2、誰だろう…。ぐっさん？笑　歌手は東京事変とかBUMPが好きです。
3、無人島とか欲しいかも。ミス・ポターみたいなことがしたいしたいです。あとは…日本庭園の保全？笑　枯山水とかすごい素敵ですよね。
4、中学までと違って高校の生徒会は、独立したかんじになっていて予定表を見たらびっしりかいてあるし、大変そうだとは思いますが、他の執行部のみなさんと力を合わせて頑張っていきたいと思います。
5、経験者がいないということは、影響がいろんな所ででてくると思います。西高にはプリントやパンフレットには載っていなくても、昔からやってきたことが数多くあるとききました。私たちにはそれが一切わかりません。先生や先輩方に尋ねることも多いと思いますが、ご協力お願いします。

**会計　林　佳那**（1―3）
1、趣味はおうちでまったりくつろぐことです♪特技は思いつきません（笑）
2、チュートリアル
3、いっぱいお買い物しますっ（笑）
4、生徒会活動は本当に初めてのことばかりで、すごくとまどっていますが、西高の伝統行事をけがさないよう、一生懸命がんばりたいと思います！ヤル気だけは誰にも負けませんっ。
5、正直私も不安だし、みんなもすごく不安だと思います。だからこそ、生徒会だけでなく、学校中のみんなでいろいろなことを協力しあいながら楽しくできたらいいなと思っています！

八木君　岩井君　／　林さん　馬場さん

書籍は教科書納入店で
文林堂
一宮市本町4の4
電話（73）4043

## 作

中国四川省で5月12日にM8の強い地震が発生し、大惨事となった。巨大な地震だったことに加え、急成長の陰で、十分に地震対策がとられていなかったことから、多くの犠牲者が出てしまった。▼日本は、翌日には救援活動の準備をしていたが、中国はそれを拒否した。要請がないと派遣ができないため、「すぐに救助に向かいたい。」という思いだけで、実際には足止めをくらった。▼15日、中国が援助隊の受け入れを発表。援助隊が被災地入りしたのは16日、生き埋め者の生存率が下がる地震発生後72時間を超えてからである。最新鋭の機器を駆使したが、結局生存者の救助には至らなかった。隊員も無念の思いで活動終了となった。▼19日、日本は医療チームを派遣する方針を決めた。中国からの要請に従い、20日、医療チームを被災地へ出発させたが、チームの願いは叶わず、現場ではなく、設備の整った大病院での医療活動になった。▼中国には、援助の受け入れに対する批判が飛び交ったが、事実はどうだったのか。少なくとも、正確かつ迅速な被害状況の把握ができなかったことに加え、中国が外国からの人的援助に不慣れであったことは事実だろう。▼追いかけるように1ヶ月後、国内でも大きな地震が起きた。岩手・宮城内陸地震である。死者こそ多くはなかったものの道路が分断されたり、温泉宿が流されたりした。▼地震は天災なので防ぐのは無理である。しかし、備えることはできる。3年前の西高新聞が「東海地震が在校時にもし起こったら?!」の特集を組んでいる。その中で500円でできる対策というものがあったので紹介する。学校のロッカーに次の物を用意しておくだけである。ペットボトルの水、非常食料、タオル、携帯用カイロ、絆創膏の5つ。▼帰宅困難者が学校待機になっても、自宅に徒歩で帰る場合でも役に立つだろう。生徒手帳の31ページも参考になる。▼さて、今回強大な地震が起きたが、2050年までにこの辺りで巨大地震が発生する確率が80～90％と言われている。被害を最小限にとどめる努力が非常に重要である。阪神大震災の記憶も薄れていく中で、震災の備えに対する意識を呼び戻し、ひとりひとりが災害への備えを怠らないようにしたい。

森永牛乳
萩原販売店
一宮市萩原町萩原2141番地
TEL〈0586〉69－7241

Rice Creation

共和食品グループ
本部：愛知県一宮市萩原町萩原183番地
共和食品工業株式会社
愛知県一宮市萩原町萩原183番地
TEL(0586)69-0001 FAX(0586)69-0003
株式会社名古屋食糧
名古屋市中村区名駅南2-2-24
TEL(052)581-0351 FAX(052)581-1283
株式会社共和フードサービス
愛知県一宮市萩原町朝宮字神明前37番地
TEL(0586)69-0001 FAX(0586)69-0003
株式会社ごはんの国
名古屋市港区木場町8番地52
TEL(052)693-2222 FAX(052)693-2224
山水米本舗株式会社
愛知県一宮市萩原町朝宮字長池60番地
TEL(0586)69-0002 FAX(0586)69-0007
共和食品株式会社
愛知県一宮市萩原町朝宮字長池60番地
TEL(0586)69-0002 FAX(0586)69-0007
エイティエイト株式会社
愛知県一宮市明地字南茱之木12-1
TEL(0586)69-7777 FAX(0586)69-7778

すくーるフォト♪
スクールあるばむ
稲沢市祖父江町
石田写真館
0587-97-0059

# 郷土歴史 61　妙興寺

# 尾張に杉田（過ぎた）の妙興寺

今年は梅雨入りが早い。今回私たちが妙興寺を訪れた日も、小雨がぱらつき始め、そのうち本格的な降りになってしまった。

一宮市にある妙興寺。正しくは妙興報恩禅寺という臨済宗妙心寺派の禅寺である。実を言うと、この「郷土歴史」でも18年前に取り上げている。しかし、そのことを知る人もほとんどいない今、この地域きっての名刹を再度訪れるのも、悪いことではないだろう。

この妙興寺の昔の地名が「杉田」であったため、「尾張に杉田（過ぎた）の妙興寺」などと言われたりしたらしい。田舎にもったいないなどという失礼な表現だが、そのくらい素晴らしい寺院だと言うことでもある。

◆

名鉄妙興寺駅に集合して、南に少し歩く。妙興寺はすでに東側に見えているのだが、正しく「総門」から入るためである。一宮市博物館を左手に見ながら少し大きな通りに出て東に行くと、少し奥まったところに総門が現れる。この門は、もともと名古屋にあったものが移築されたものだという。

総門をくぐると左手正面に「勅使門」がある。妙興寺は今から660年前の南北朝時代、貞和4年（1348年）に尾張国中島城主中島蔵人の次男滅宗宗興によって創建されたという古い歴史を持つが、境内にある多くの建造物は火災や震災の被害に遭い、後世に建て直されている。

その中にあって、この勅使門のみが創建当時からの唯一の建築物であり、国指定の重要文化財に指定されている。宮廷からの勅使を迎えるときに使われたものなのだろう。

◆

さらに奥に進むと左手に池があり、勅使門の正面に「三門」が見上げんばかりの偉容でそびえている。三門は三解脱門の略で、空門・無相門・無願門の3つの境地を経て仏国土に至る門なのだという。どっしりとした重総門を支える様々な組木を見ていると、まるで京都や奈良の仏閣にいるような気にさせられる。

三門をくぐった先にあるのが仏殿で、この日は扉が閉じられていた。瓦屋根の角角には魔よけの大きな鬼瓦が載せられ、四方をにらんでいる。

◆

左手に折れて、道場にあたる「知客寮」を訪れた。あらかじめ電話で来訪を伝え、案内をしていただけないかと頼んでおいたのだが、「5月からちょうど雲水の修行が始まっている期間なので、パンフレットを渡すくらいしかできないかも知れないけど…」と言うことであった。

墨衣を来た1人の僧が対応してくれたが、ちょうど昼食時だったらしい。応対も小声で、修行中の厳しさの一端を感じさせられた。しばらく待つと、「1人の雲水に案内させる」と好意的な対応をしていただくことができた。

◆

作務衣を着た雲水が現れ、普段は見ることの出来ない本坊の道場の内部まで案内をしてくれた。本坊の石庭は京の竜安寺のようで、川の流れを表し、奥に置かれた岩は水浴びする象なのだという。

座禅の修行をする道場は、1人の雲水に畳1畳の場所が与えられ、その半畳の部分で座禅を組み、寝るときは上部に格納された柏布団を取り出して、挟まるようにして眠るのだという。文字通り起きて半畳寝て1畳の生活をする。

道場の正面には鎌倉時代の作という木造大応国師坐像（重文）が、開山した滅宗宗興の創建開山大照禅師坐像とともに祀られていて、それらも拝観することが出来た。

◆

降りしきる雨の中、境内の建造物やあちこちにある仏教に関連するモニュメントなどの説明も受けた。庫裏の大棟に煙り出しの櫓が載っていて、その構成の妙を楽しむことが出来る。道場入り口の左手には鐘楼があるが、白壁で囲まれている鐘楼は珍しく、いかにも禅寺という雰囲気を醸し出している。境内には耕雲院や太陽院などのいくつかの塔頭（たっちゅう）があり、現在は妙興寺の分寺となっている。雨脚が激しくなり、また昼時を過ぎ、空腹になってしまったので、妙興寺を辞することにした。

◆

今回はどこで昼食としたらいいだろうか。実は「妙興寺」を調べていたら「妙興寺そば」というものを見つけた。今のような細いそばの調理法を考え出したのは妙興寺の僧であるのだという。「妙興寺そば」はそれにちなんで命名されたそばで、東京浅草にそれ食べさせる店がある。細切りの大根をそばに混ぜ、味噌味の汁で食べるらしいが、シャキシャキした歯触りが楽しめるという。しかし、残念なことに、このそばは当地では食べることが出来ない。

少し前、妙興寺でもそば打ちをしてそばを供したこともあったらしいが、修行をしていた雲水の中にそばアレルギーの者がいて、何回か救急車で病院に運ばれるという事件があり、以後妙興寺ではそば打ちをやらなくなったのだと、往時を知る方から伺った。

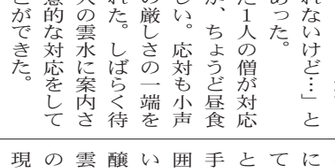
◆

そこで今回は、近くのオムレツ屋に行くことになった。人気の店らしく席待ちの客が多い。しかし、予約を入れてあったため待たずに着席できた。定番のオムライスを全員注文。卵は地元の一宮市浮野でとれた新鮮なものを、お米は岐阜産のハツシモを使っているとメニューに書かれてあった。地産地消を心がけた、エコロジカルなオムライスは、ふっくらとしていて、上に掛けられたケチャップソースの濃厚で爽やかな酸味と甘みとコクがマッチして、おいしくいただいた。それに何とデザートにクリームチーズケーキまでついたのだった。

左が「鐘門」、右が屋根に煙り出しが載った「庫裏」

重文指定の「勅使門」

道場で説明してくれる雲水


絶妙なケチャップソース

## MY SCHOOL DAYS

### 服部恭子 先生

去る5月21日（水）～23日（金）2年生修学旅行の行き先は「広島・山口」。私は引率者としてB班に同行し、今までに幾度となく利用している懐かしい「新山口」駅で下車をしました。この「新山口」からJR山陽本線上りに乗り換え30分位で「防府（ほうふ）」という駅に着きます。ここが私のふるさとです。

出身は「山口県」と言うと皆さん「あ～ぁ、本州の一番西」となり、次に「防府市」と答えると、なかなか知っている人はいません。あえて言うなら、「雨ふるふるさとはだしであるく」で有名な漂泊の俳人、種田山頭火の生誕の地であり、日本三天神の1つ、学問の神様の菅原道真公を祀った神社「防府天満宮」が有名かも。道真公は九州への西下の途中、防府に立ち寄りすっかりこの地が気に入り、自分が死んだら魂となって帰ってくると約束されたとか。旅の途中で寄られた場所が今でも御旅所（おたびしょ）として残っています。家の近くにあったので小学生当時はそれがどんな場所かも知らずに遊び場として使っていたものです。

なにぶん田舎のことなので高校の数も少なく、ほとんどの生徒が市内の地元の県立学校3校（内1校は新設でした）から選び、私立は男子校か女子校になるという状況。幸い徒歩で15分～20分で通学できる県立高校に合格し、花の高校生活に突入…と言いたいところですが、太っていて極度の近視のため牛乳瓶の底のような眼鏡をかけた私はコンプレックスが強かったと思います（写真写りは良いかも）。

## 大人びたMさんへの憧れ

運動は苦手なので、小さい頃から絵を描くのが好きだったこともあり、選んだ部活は美術部でした。部員はほとんどいなかったし、顧問は顔も覚えてないくらい指導はなかったので、気の向くままに静物画の油絵を描いたり、ブラスバンドの友人の部活に行ってデッサンをして過ごしました。

また、当時は課外活動とは別に週1時間、木曜日の6時間目に「正課クラブ」の時間があり、私は「ギタークラブ」に所属。のんびりした時代だったのでしょう。好きな曲を好きに練習していたように記憶しています。もっぱら練習していたのがかぐや姫の「神田川」でしたが、指が短い私はなかなか「Bm」を押さえることが難しく、もっと難しい曲をきれいな音で弾いている同じクラスの男友達をうらやましく思ったものです。

クラスは2年生から女子14人のクラスで、特にグループができるわけでもなく全員が仲良し的な雰囲気でした。なかでも必ず学級委員長を務めるのがふさわしいと思わせる人はいるもので、大人びた雰囲気をもったMさんは私の憧れだったかもしれません。男子を含めて他のクラスメートもそう感じていて、必ず彼女の周りには人が集まり、先生にも信頼があり「彼女のようになりたい」と思ったものです（彼女に限らず常に人をうらやんで、いいな～この人と思っていたのですけど）。ある日、どんなきっかけだったか覚えていませんが、Mさんの家に遊びに行くことになりました。そこで彼女が好きなアーティストのレコードを聴かせてもらったのが「山下達郎」で、まだ今ほど有名ではなかった時代でしたが、彼女の影響で「養護教諭」を選んでいました（自分自身は体だけは丈夫だったので、保健室を高校時代に利用したことはありませんが）。だめなら普通に就職すればいいかと思っていましたが、今はこうして養護教諭として働いています。

思春期は、自分探しの時代だとよくいわれます。自分ってなんだろうと悩み、何のために勉強しなくてはいけないのかと考え、自分のあるべき位置を模索する。答えはでません。親から離れ自分の未熟さを感じながら、社会に出て人にもまれて生きていくことで答えが見つかるような気がします。

西高の皆さんにはその時々の自分を、経験を必然と考えて大事にして欲しいと願います。二度と高校時代は来ないのですから。

## 高校総体予選

# 陸上男子1600mR、女子3000mW 全国大会出場！

今年も、多くの部が健闘をした総体の結果を、県大会以上に出場をしたところを中心に紹介する。

新体操部は団体が1部で3位。個人では1部で、森由佳さんが8位、山田早織さんが11位、中畑沙紀さんが12位で県大会に出場した。

女子バスケットボールは3位決定戦で西春に勝って県大会に出場したが、1回戦で岡崎商業に敗れた。

男子バレーボールは決勝戦で一宮南に負け、準優勝で県大会に出場したが、碧南工業に敗れ、1回戦敗退だった。

女子バドミントンは団体では3位で県大会に出場し、1回戦で愛知淑徳に敗れた。ダブルスは山中・大野さんがベスト16で県大会に出場し、大府に1回戦で負けた。シングルスでは大野恵利香さんがベスト16で県大会に出場、1回戦で愛知淑徳に負けた。

男子バドミントンはダブルスで浅野・高田君がベスト8で県大会に出場したが、1回戦で南山に敗れた。シングルスでは浅野佳太君がベスト8で県大会に出場、岡崎城西に負け、1回戦敗退。

女子弓道は団体で優勝し、県大会に出場。個人では5位で杉本彩乃さん、神戸あずさんが県大会に出場した。

男子弓道は個人で小川尚也君が県大会に出場した。

サッカーは準決勝で稲沢東に敗れ、3位で県大会に出場し、長久手に1回戦で敗れた。

女子ソフトテニスは団体で優勝、県大会に出場し、2回戦でまで駒を進めたが、豊橋商業に負け、ベスト16だった。個人では戸田・渡辺さんが3位、福田・松園さんが14位で県大会に出場したが、戸田・渡辺さんは富田に、福田・松園さんは星城に、共に1回戦で敗れた。

男子ソフトテニスは団体では4位で県大会に出場、個人では木村・渡邉君、吉川・吉田君が県大会に出場したが、いずれも1回戦敗退。

陸上は女子が総合優勝で3連覇をし、更にトラック優勝、フィールドは4位だった。男子は総合で3位、トラック優勝をした。優勝をしたのは200mで平野達也君、蜂矢志穂さん、400mで平野達也君（大会新記録）、若山紗季さん、5000mWで伊藤恭道君、4×100mRで八木・鈴木・大林・平野君（大会新新記録）、服部・若山・黒田・蜂矢さん（大会新記録）、4×400mRで八木・鈴木・大林・平野君（大会新記録）、黒田・若山・蜂矢・服部さん（大会新記録）、走り高跳びで若山紗季さん、100mHで蜂矢志穂さん、400mHで蜂矢志穂さん（大会新記録）だった。

2位だったのは、400mで鈴木翼君、5000mWで後藤雄貴君、100mで若山紗季さん、400mHで内藤有里子さん、3000mWで大津苑美さんだった。次に3位だったのが、5000mWで山内悠君、100mHで黒田紗希さん、円盤投げで飯田綾佳さんだった。4位から8位で県大会に出場したのは、八木博靖君、後藤紗良さん、服部沙紀さん、浅井美貴さん、森穂波さんであった。

県大会では、400mは平野達也君が5位、4×400mRは八木・鈴木・大林・平野君が2位で、服部・若山・内藤・黒田さんが6位、100mHで蜂矢志穂さんが5位、400mHで黒田紗希さんが3位、3000mWで大津苑美さんが5位で東海大会への出場を決めた。5000mWの伊藤恭道君は4位、4×100mRの八木・鈴木・大林・平野君は7位、300mWの浅井美貴さんは8位で東海大会への切符を惜しくも逃した。

女子卓球は団体で準優勝し、県大会に出場したが、2回戦で安城学園に敗れた。シングルスでは5位で長崎愛子さん、9位で星野真由さん、野田さつきさん、17位で尾関夏名さん、飯尾栄里さんが県大会に出場した。ダブルスは5位で野田・内藤さん、尾関・長崎さんが県大会に出場した。

男子卓球は団体で5位になり、県大会に出場。シングルスでは9位で足立剛君が県大会に出場した。ダブルスでは9位で足立・浅野君、12位で服部・溝口君が県大会に出場した。

水泳部では100m背泳ぎで、山田浩兵君が県大会への出場を決めた。

6月5日に行われた受納式では多くの部が表彰された。その中でも圧巻だったのが、陸上部ではなかっただろうか。確かに陸上は個人競技が多いので、人数が多くなるのもわかる。それでもあの人数が表彰を受けるというのは、素晴らしいと思う。これからも陸上部には頑張って欲しいが、他の部活も負けないように練習に励もう。

岐阜で行われた東海大会に出場した陸上部は、男子4×400mRで八木博靖・鈴木翼・大林稔和・平野達也君が2位、女子3000mWの大津苑美さんが3位で、埼玉県で行われるインターハイへの出場を決めた。全国大会での健闘を期待したい。

なお、400mの平野君は惜しくも準決勝で、100mの蜂矢さん、400mHの黒田さんは予選で敗退した。

また、総体の尾張支部の総合成績で女子は昨年に引き続き優勝、男子は昨年より順位を1つ上げ、3位に輝いた。

陸上部・全国大会への切符を手に

## 西高の木 ⑩

### ニワウルシ

クラブハウスとテニスコートの間に、背の高い2本の木があり、夏には大きな複葉を繁らせる。それがニワウルシである。

ニガキ科の落葉高木で、葉がウルシに似ているためにこの名がついたと思われる。しかし、ウルシの仲間ではないのでかぶれる心配はない。

本校のニワウルシはグラウンドからもその堂々たる姿を眺めることができ、本校のシンボルツリー的な存在感を放っている。

初夏、緑白色の小花をたくさんつける。秋には果実が熟し、種子はカエデのそれのようにヒラヒラと風に乗って舞い、あちこちで発芽する。

## 編集後記

▼今回の郷土歴史の取材で、昔の建物の偉大さを感じることができました。雲水さんから話を聞くという、普通ではできないような素晴らしい経験もでき、うれしく思いました。大雨が降る中での取材は大変でしたが、数々の建築物を見て、古い建物に関心を持つようになりました。（も）

▼初めて新聞部の取材に行きました。一般の人では見ることの出来ない場所を見て、充実した取材となりました。近くにいても妙興寺の歴史などを聞く機会もなかったので、よい経験になりました。お昼のオムライスはとても美味しかったですよ！皆さんも、ぜひ行ってみてください。（よ）

▼今回も多くの困難の果てにこの新聞ができあがりました。新入部員がいない、特集何にしよう、と様々な苦労を乗り越えて完成したものです。兼部で1年生が2人入ってくれました。特集は生徒会の事になりました。新聞を読んで興味が湧いたり、入部しようと思ったら、新聞部の部室まで気軽にどうぞ。（い）

## スピーチ

旧3年8組　平野七華 さん

# 努力は報われるのか

本当に努力は報われるのか。失敗が続くと、すべてがうまくいかない気がする。自分の限界を決めることは甘えだが、努力し続けることで小さな成功を得るだろう。もしかしたらそれが大きな励みとなるかもしれない。がんばった分だけ結果はついてくる。これは真か偽か。私は何をやっても成功しないから。がんばったって無駄なのだ。そう思っていた。

中学生時代に私はひたすら部活に打ち込んでいた。朝練、業後の午後練、土日の練習や練習試合…厳しい先生のそれはもう鬼のような指導を受けながら毎日練習していた。

忘れもしない2002年の冬。私は肩を怪我した。半年間は部活禁止という無茶な言いつけを守れるはずもなく部活に明け暮れていた。しかし、努力のかいもむなしく、最後の試合で怪我に悩まされ、満足いく結果にはならなかった。一生付き合わなければならない怪我を残して部活は終わってしまった。やっぱり私の努力は実らなかった。

西高に入学して今までにないくらいの課題の量に追われ、昔の何倍も速いスピードの授業を受けて、最初のテストは悲惨なものだった。やってもやっても追いつけない。努力していてもまたしても報われないのだ。何も成功しないときはつらいものだった。すべてが駄目に見えて、何をしてもうまくいかない気がした。もう無理だと思った。これが限界っていうことだろうか。

1ヶ月くらい前のことだが、いつものように友達と尾西線に乗って帰宅していた。たわいもない話をして、盛り上がっていた。どういう話からだろうか。その友達はがんばりたいのにがんばれない。と言っていた。なるほど、と思って聞いていると、友達は、自分でももう無理って思うくらい頑張って、限界見てみたくない？と言った。

ああすごいな。私は自分で自分に境界線を引いていたのだな。限界を先に決めてしまっていたのだ。限界を勝手に作って境界線を引いていることが世の中にはたくさんありすぎる。数学の問題じゃないんだ。境界線なんていらないはずだ。限界をつくることはいいかえれば自分を甘やかしていることだ。自分はここまでしかできないんだ、と決めることで、それ以上に挑戦することをやめて、打ちのめされることから自分を守っている。もちろん、私はその代表例ともいえるだろう。何をしても成功しない、だから頑張っても無駄だと、ちゃっかり境界線をひいている。世の中には私みたいな人がたくさんいるのだろう。

だが、ひとつの成功が私を変えつつある。趣味からはじめたバンドである。私はそこでベースをひいている。もともとピアノは大好きだったが、ベースなんて見たことも触ったこともなかった。何も知らない、誰も教えてくれない、真っ暗闇のなか手探りの状態だった。初めて聞くベースの音はすごく響いていまでも忘れられない。

ただがむしゃらに、楽しく、勉強の息抜きとしてやってきた。だからだろうか、限界だとか境界線だとか、何にも縛られずにやってくることができた。そして今、大いに満足している。これを達成感と呼ぶのだろうか。はじめて、頑張った結果が実を結んだといえるかもしれない。バンドは、勉強をする西高生としては不本意なものかもしれないが、自分の努力が報われて結果がついてきたことに違いはない。周りから見ればたかが小さな趣味の範囲での成功にすぎないかもしれない。しかしこれは私にとってはとても大きな意味を持っている気がする。

以前、私の父は大学院に通っていたことがあった。40歳半ばにして、机に向かって夜遅くまで受験勉強をしていた父の背中には限界とか境界線なんてものは微塵も感じられなかった。無事に卒業した父は今もまた何かをしようとしているらしい。今度はどんな野望にむかっているのだろうか。父もまた、限界を見てみたい、と思っているのだろうか。それに比べて私はなんであろう。これから先も境界線で自分を守っていくのだろうか。そんなのは嫌だ。

私は変わらなければならない。私だって成功することができるんだ。境界線に守られているばかりは変わらない。ちいさな成功を無駄にしないように、この成功があったおかげだといつか言えるようになりたい。失敗しても努力し続けること。その中の1つでもいいから成功することが大きく励みになることもあるだろう。がんばった分だけ結果がついてくる。真か偽か。その答えはきっと真だと私は思う。